

11月定例山行大山ハイキング報告



【山域】丹沢山塊 大山

【日程と天気】2019年11月6日（水）快晴

【メンバー】CL 磯部、SL 八角、井上、渡辺、高地、上茂、下築、高山（記録）

【行程】蓑毛ーヤビツ峠ー大山ー大山ケーブル日帰りハイキング



これって、何のシンボル？

答えは文末へ

大山 ふたたび

皆さんにとって大山ってどんなところだろうか？

筆者にとっては、「電車や車でよく麓を通り抜けて」「近くて、あまり行かない」山である。と言っても、二十数年前に横浜に住んでいた時期、ある小春日和のウィークエンドで、ふらっと家族で相鉄と小田急線に乗り継いでピクニックの気分で訪れた切り。千葉県民になって久しいが、わざわざ東京を超えて再びあの「大山」に登りに行く動機が付けられず、2度目の大山登山が実現していない。

しかし、今回11月平日山行でリーダーが企画してくださった大山ハイキングで再び行ってきて、イメージが一変するほど大山への印象が変わった！当然のことながら、変わったのは山のほうではなく、自分の認識のほうだということは自明である。

詳しくは以下に記述する。ご一読を。

（自白：セクション タイトルの「大山 ふたたび」は小田急線電車の中吊で見かけた宣伝コピーだが、自分の実情にぴったりなので、パクらせてもらった、笑）

今回の山行参加者は総勢 8 名だが、総武線・中央線・小田急線と乗り継いで 8:36 に秦野駅に降りたのは 7 名で、IS さんが別ルートで先に到着、駅前のバス停で待ち合わせ、これで全員揃った。バス終点の蓑毛から登山開始の予定で、駅のバスロータリーで蓑毛行きバスを待っていると、なんと蓑毛より先のヤビス峠までのバス路線があることを“発見”するが、このことを告げるとリーダーから“我々は一応山岳会のメンバーなので、”というやさしくて厳しいコメントを戴くことになってしまった（笑）。よく時刻表を確認したらヤビス峠へのバス便数があまりにも少なく登山口行きに使いたくても使いづらい。

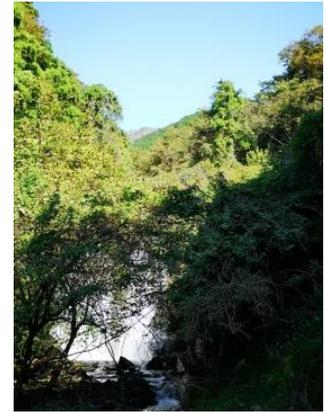


ゆったりしたペースで頂上へ目指す

朝 9 時半、蓑毛で一行がバスを降りて、記念撮影や体操などの準備運動を済ませて、いざ入山するが、さっそく“熊出没注意”の看板が現れた。こんな身近な山でも人里から一歩踏み出せば、そこが大自然の中なんだなあと意識転換を促された。



歩き出したすぐに道の脇に神社とお寺が立地しており、さっそくバス停辺りの明るく開かれた空間から深い森に包まれた雰囲気へ吸い込まれた感がある。登山道がせせらぎのような沢に沿って、付かず離れずの距離をたもって暫らく登る。歩くこと 30 分で砂防ダムの手前に、簡易な橋が沢に掛かっていた。橋を渡る前に広めのスペースと水場が有って、ここで水分補給のための短時間の休憩を取った。



沢を渡ってから水の流れから遠ざかって、さらに 20 分ほどトラバース、少し登って 11 時過ぎにヤビス峠に到着。バスケットボールほどの広場に、ベンチとテーブルが配置されていて、格好な休憩スペース。他に利用する登山者も無いし、ゆったりした空間を利用して長めの休憩に入り、行動食を取ったり、水分補給したり、しばしの山談義を楽しんだ。



休憩後ヤビス峠からはイタツミ尾根一本で大山山頂に向かう。急な登りの階段や岩場が現れて、本格的な登山の雰囲気を演出する。ところどころに季節の紅葉が色づき始めた場所もある。また、登山道さながら山頂手前で“25丁目”という面白い地名の付いた場所があり、阿夫利神社下社方面からの表参道と出会う場所である。(因みに調べたらこの丁目の数は表参道登山道に付けられたようで、阿夫利神社下社から山頂まで 1 丁目から 28 丁目と示された石柱が立っているそうだ。)

25丁目付近で丹沢の山脈越しに新雪を戴いた富士山の雄姿を望む大展望が広がった。



大山山頂上で殿様気分を味わう

鳥居をくぐって、間もなく山頂に鎮座する阿夫利神社本社とご対面。ここで、集合写真を撮り、ランチを済ませるのは言うまでもないが、何と云っても、この丹沢東端に海拔1251.7mの頂からの大展望が贅沢だった。眼下の相模湾がキラキラに昼過ぎの太陽を反射し、米粒のような江ノ島の彼方に三浦半島が大海原に伸びる。ランチの後は視野がさらに開け、横浜のランドマークタワーとベイブリッジが微かに見えてきた。更に左に目を移すと、関東平野が広がって、(良く澄んだ日は)我々が朝発った房総半島も含めた首都圏が一望できる(はず、、、だよ、当日はガスが薄くかかって見えなかったが)。

山頂に居座ってこの至福のひと時を過ごしていると、まさに天下を取った殿様のような気分になれたような気がする。確かめていなかったが、女性陣もきっとお姫様のような気分だったろうな。ここで初めて、ヤビス峠までの乗り物ではなく、地に着いた自分の足で歩いてきたからこそ味わえるしっかりした喜びだと悟った(笑)。

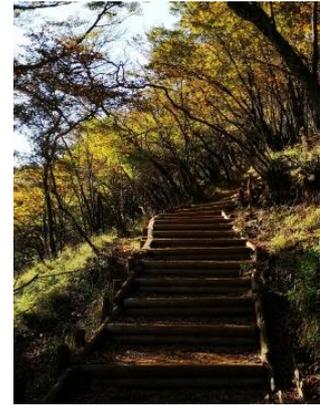


信仰の文化に触れて下山

山頂で殿様やお姫様の気分でゆっくりくつろいだ後、2時に下山の途に。下山は登ってきた道とは異なり、(フルジョウ登山的に?笑) ケーブルカーとバスを利用して伊勢原駅に向かう。

山頂から程なくして見晴台という名の場所を通るが、その名に相応しくなく展望が無い。崖側と山側の両方ともフェンスとネットでしっかりガードされたトラバースの道を通して、阿夫利神社下社に到着。





山頂の阿夫利神社本社よりも下社が立派な作りで、堂々たる建物と石造りの階段とも雰囲気があった。ケーブルカーの阿夫利神社駅はすぐその横で、20分間程度置きに運転しているようだ。6:20分発に乗って、夕日を浴びて黄金色の相模湾を正面に望みながら途中の大山寺駅に降車せず一気に降りた。

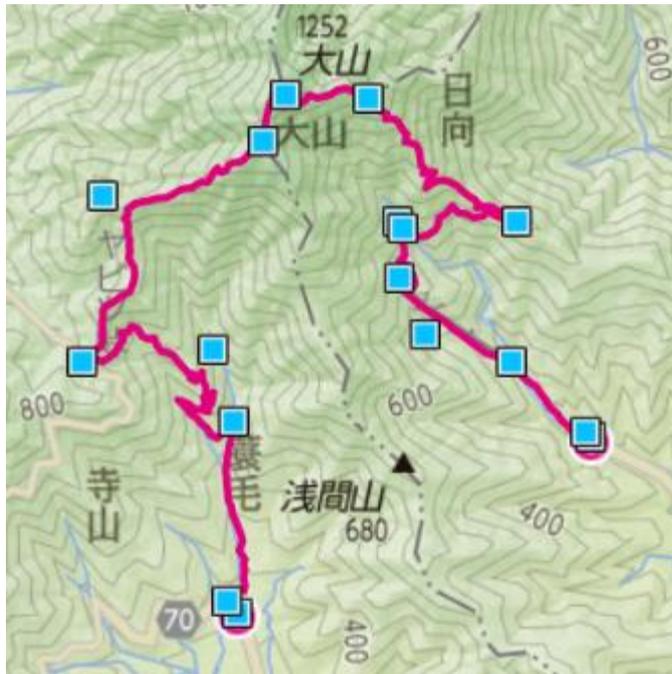
ケーブルカー駅からバス停までは10分間ほど長く緩やかなコマ参道を通るが、お土産物屋さんや茶屋、旅館が両側に処狭しに並び、色とりどりで見物人や登山者の目を楽しませた。ここで同行のHさんから聞いた話だが、千葉から毎年のようにここのお寺を訪れたそうだ。お世話になっている近所のお寺とこちらと縁があり、自分のところのイベントの始まりはいつもここをお参りしてからだそうだ。「すべての道は大山に通ず」と言われるほど、歴史的に大山信仰の影響が如何に広いかを改めて思い知った。



下山後バスに揺られて伊勢原駅に着いて、皆さんに分かれを告げ電車に乗り継いで帰葉。

【謝辞】

二十年ぶりの大山探訪、天気も文句なしの秋晴れであり、そして人間社会の身近な大自然とその歴史的な雰囲気を感じて、期待した以上の充実した山行であった。この素晴らしい山行を企画してくださったリーダー、それにワイワイ楽しくご一緒させていただいたメンバー各位に感謝を申し上げたい。どうもありがとうございました！



- 出発時刻／高度： 09:28 / 313m
- 到着時刻／高度： 16:44 / 327m
- 合計時間： 7 時間 16 分
- 合計距離： 9.92km
- 最高点の標高： 1227m
- 最低点の標高： 313m
- 累積標高（上り）： 1174m
- 累積標高（下り）： 1143m

S	葦毛	09:32	10:03	春岳沢	水場	10:05	11:13	セビツ峠	11:14	12:58	25丁目	12:59
	13:44	大山	14:01	14:22	不動尻分岐	14:22	15:19	見晴台	15:27			
	15:54	大山の二重の滝	15:54	15:57	阿夫利神社下社	16:02	16:27	大山ケーブル駅	16:28			
	16:42	大山ケーブルバス停	16:42	16:44	ゴール地点	G						

これって、何のシンボル？ 答えは大山こまである。

大山こま（おおやまこま）は、神奈川県伊勢原市に伝わる郷土玩具（こま）である。大山阿夫利神社参詣の土産物として知られ、江戸時代中期以降、大山信仰の広まりとともに知名度を高めた。心棒が太く安定感のあるどっしりとしたこまの形と、紺、赤、緑などで色彩豊かに彩られたろくろ模様が特徴であり、神奈川県産五〇選の1つに選ばれている。玩具としての最盛期は昭和30年代で、その後技術保持者が減り続けていた。2017年（平成29年）、伊勢原市が大山こまの製作技術を市の無形民俗文化財に指定して技術の継承と後継者の育成を図っている。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』